

開催日程：令和5年12月14日（木）13：25～15：15

開催場所：香川大学教育学部附属坂出中学校

事業内容：財政教育プログラム

対象者：附属坂出中学校3年生105名

講師：四国財務局5名（園路忠治室長、阿部万理室長補佐、宮前亜依里財務事務菅、三宅文室員、山西雛歌検査官（メイン講師））

プログラム内容

1. はじめにメインの講師である山西雛歌検査官より自己紹介があり、実は講師の山西さんは附属坂出中学校の卒業生であり、久しぶりに訪れた母校の校舎を懐かしく感じたと話した。その後財務省（四国財務局）の業務について説明がなされた。

プログラム全体の流れは国家財政の仕組みを丁寧に説明がされ、税金や借金で収入が構成されていること、また様々な公共サービスや借金返済にお金が使われていることが非常に良くわかった。

次に4人ずつのグループに分かれ、グループとして日本という国をどのような国にしたいかテーマを決め、そのテーマに沿った収支のバランスを考えていく作業に入った。

まずひとり1台のタブレットを使用し、財務大臣になったつもりで個人の意見として税収をどう増やすか、法人税を10%増税すれば国内企業が海外流出してマイナスになるリスクがあるとか借金をいくらくらいするか、また高齢者福祉に力を入れるために社会保障制度に予算を割こうか、防衛費は減らしていこうといった様々な意見をグループとして集約し、予算を組み上げていった。

その後3つのグループが発表し、目指すべき国家像とその実現に向けた予算編成を説明した。

所感（ふりかえり）

この時期の3年生は社会科の授業で財務省や国のお金事情についても学習が進んでおり、またグループ討議や発表を聞いていると税金に関する知識や国防についても様々な情報が入ってきていると感じた。

ひとり1台のタブレットを使用することで、グループ内の議論でもそれぞれの考えを分かりやすく説明することができていると感じた。

終了後のふりかえりでは、学習の進捗状況に応じて基本的な説明部分を圧縮でき、討議や発表の時間をもっとながく取れるのではないかと伝えた。

